

会 議 録	
会議名	令和5年度 第2回丸亀市自治推進委員会
開催日時	令和5年10月24日(火) 18:30~19:55
開催場所	丸亀市市民交流活動センター(マルタス) 2階 ROOM4
出席者	<p>出席委員 鹿子嶋仁、関泰子、高尾光一、高木明美、前田誠、岩根綾香、新野智雪、豊岡士</p> <p>欠席委員 池永文彦、垣渕直子、秋山ともえ、岩崎正朔、門裕介、和泉敏之</p> <p>事務局 市長公室長 栗山佳子 (市長公室秘書政策課) 課長 真鍋裕章、主任 安藤悠子</p> <p>市出席者 市民生活部長 田中壽紀 (市民生活部生涯学習課) 課長 谷本智子、副課長 後藤幸功、市民協働担当長 直江麻紀、主事 高島のどか</p>
議 題	<p>1. (仮称) 第2次丸亀市協働推進計画(案)について</p> <p>2. その他</p>
傍聴者	0名
発言者	議事の概要及び発言の要旨
真鍋課長	<p>定刻がまいりましたので、ただ今から、令和5年度第2回丸亀市自治推進委員会を開会いたします。本日は大変お忙しい中、ご出席を賜りましてありがとうございます。それでは、議事に入ります前に資料の確認をお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;"><資料の確認></p> <p>本日の会議につきましては、前回と同じく議事録作成支援システムを使用し、会議を記録いたしますので、発言される際にはお手数ですがお手元のハンドマイクを使用して発言していただくようお願いします。ここからは、丸亀市附属機関設置条例第7条に基づきまして、鹿子嶋会長に議事進行をお願いいたします。</p>
鹿子嶋会長	<p>本日の会議ですが、現在、委員総数14名のうち8名のご出席をいただいておりますので、丸亀市附属機関設置条例に基づき、会議が有効に成立していることをご報告いたします。</p> <p>それでは早速議事に入ります。「(仮称) 第2次丸亀市協働推進計画(案)について」、事務局より説明をお願いいたします。</p>
直江担当長	<資料1に基づき説明>
鹿子嶋会長	ご説明ありがとうございました。今期新しく委員になった方もおられますの

<p>谷本課長</p>	<p>で、丸亀市の自治基本条例や総合計画、協働実行計画とどのような関係性があるか概略をご説明いただけますか。</p> <p>「2. 計画の位置付け」で記載していますとおり、第二次丸亀市総合計画後期基本計画の一分野として「協働の促進」という項目が設けられており、協働推進計画はその項目に関する個別計画になります。また、協働はあくまで手段ですので、様々な行政施策を推進していくうえで、協働を推進するための基本的な理念を持ち合わせているものと考えております。</p> <p>自治基本条例ができた後、信頼で築く丸亀市さわやか協働推進条例ができ、その後、協働推進計画、それから協働実行計画を策定し、現在に至ります。ただ、推進計画と実行計画は厳密に区別しているものではなく、推進計画の方が大きな概念や施策の方向性を記載しているのに対し、実行計画はより細かな計画を記載し、毎年見直しを行っている状況です。</p> <p>今回、推進計画という名称にしたのは、5年間という一つの区切りを設け、大きな概念を示しながら、かつその5年間で実施する内容を記載するという意味で、推進計画の方が名称としてふさわしいと考えたためです。</p>
<p>鹿子嶋会長</p>	<p>26 ページから施策の展開について記載がありますが、その中で「指標」というタイトルだけがあり、具体的にはまだ何も示されていません。この指標が定められると本委員会でもチェックがしやすいと思います。特に数値的指標ですと、進行度合いが明らかになってきますが、今後この指標は具体化されていく予定でしょうか。</p>
<p>谷本課長</p>	<p>指標につきましては、「施策の方向性」ごとに1つずつ設けていきたいと考えています。アンケートを5年ごとに実施する予定ですので、5年後のアンケート結果が出て初めてわかるような指標もあれば、毎年の具体的な回数などを指標にすることもあろうかと思えます。</p>
<p>鹿子嶋会長</p>	<p>それでは何かご意見やご質問などがありましたらお願いします。</p>
<p>前田委員</p>	<p>6 ページの「年齢別人口の構成比予測」は全国のデータですか。</p>
<p>谷本課長</p>	<p>丸亀市のデータです。市に関するデータであることが分かるように追記いたします。</p>
<p>前田委員</p>	<p>この表は平成30年のデータですが、古すぎませんか。また、その上の「人口推移の予測」の表の中で、丸亀市の独自推計の2025年の数値が約10万8千人となっています。これは近々下回るので、この数字も正しくないものになりますが、このまま掲載するのでしょうか。</p>

谷本課長	<p>「人口推移の予測」のグラフは、5年ごとの国勢調査の数字を基にしておりますので、タイムラグが出てまいります。2つの表に関して、最新のデータがないか確認いたします。</p>
前田委員	<p>「コミュニティの状況」に関して、自治会加入率の推移についてのデータは、丸亀市の世帯数を掲載した方が、イメージしやすいのではないのでしょうか。また自治会の加入率は地域差がありますので、地域ごとの世帯数や自治体加入率のデータを載せると、自治会加入率が下がっていないところがあるのが分かります。</p> <p>それから、コミュニティへの補助金のデータを載せることで、補助金と自治会加入率の関連が見出せると思います。これらの数値を掲載することについてはどのようにお考えですか。</p>
谷本課長	<p>協働を推進する計画にどこまでのデータが必要かということになりますが、ここでは自治会加入率が50パーセントを切ったという傾向が分かれば良いと考えており、地域ごとの自治体加入率など、細かな情報は必要ないと思っております。どこまでのデータを掲載するかは、他の委員の意見も頂戴しながら考えていきたいと思っております。</p>
鹿子嶋会長	<p>確かに、地域ごとに自治会加入率は違います。自治会加入率の差は、補助金を出しているかどうかということも1つの要因になるかもしれませんが、多くの研究者が、複数の要因が重なって自治会加入率に結び付くと分析しています。何か特定の要因があって地域ごとの自治会加入率に差があるのであれば、そのデータを出すと分かりやすいと思いますが、いろいろな議論があるなかで、補助金のデータだけを出すことは、一定の方向に議論を誘導することになる恐れがありますので、まだ要因分析ができていない現段階では、データを細かく出す必要はないと思います。</p> <p>そもそも自治会加入率を上げることが本当に良いことなのかという議論もあります。自治推進に関しては重大なテーマになりますが、今回の協働推進計画で提示するデータと考えると、そこまで詳細な情報は必要ないと考えられます。</p>
前田委員	<p>資料27ページに「地域活動や市民活動、協働に関する情報を整理し一元的に発信するなど、誰もが情報を入手しやすい環境を整えます」とありますが、先日マルタスに、子ども会が登録できるか聞いたところ、地域を限定する団体に関しては登録できないという回答を受けました。マルタスとは別の仕組みで情報の一元化を予定されていますか。</p>
谷本課長	<p>まだ具体的には情報の出し方を決めていませんが、マルタスに登録すれば発信できることもありますし、市のホームページでも、ボランティア募集のページを設け窓口を1つにすることで、市の様々な部署で募集しているボランティアの情報に辿り着きやすくなるという意見もいただいておりますので、そのようなこと</p>

	<p>をやっていききたいという意味で一元的という表現をしております。</p>
前田委員	<p>資料 29 ページの「まちづくり大賞」の表彰はどのようなものでしょうか。若い方がコミュニティに参加するきっかけづくりのため、学生の優秀な企画を表彰し、団体ではなく個人に補助金を出すことで成功事例が身に付くと思いますが、この「まちづくり大賞」は別のものでしょうか。</p>
田中部長	<p>各コミュニティが取り組む先進的な事例や課題への新たなアプローチに対する資金的な援助として「まちづくり補助金」というものを交付しています。まちづくり補助金を受けて行ったコミュニティでの取組をご紹介いただき横展開につなげたいという思いで、取組内容を外部委員を交えて評価し、先進的あるいは有効的な取組を「まちづくり大賞」として表彰しています。</p>
前田委員	<p>学生がプレゼンテーションをしているのではないということですね。今までコミュニティ活動をしなかった人が興味を持つきっかけづくりが必要だと思いますが、先ほど申し上げた学生の優秀な企画への表彰についてはいかがでしょうか。</p>
谷本課長	<p>協働を推進するなかで、若い方への働きかけにも取り組んでおります。ただ学生の優秀な企画を表彰するという事は、これまで実施したことのない手法ですので、やってみる価値はあると思います。コミュニティは自主的に運営してくれておりますが、1つの方法としてそのような制度を提案することはできますし、コミュニティに限らず若い方を対象にした事業ができれば良いと思いました。</p>
鹿子嶋会長	<p>若い人に自治に対して関心を持ってもらったり、何か活動に参加してもらったりすることが重要です。せっかくこの会議に若い学生が参加してくれていますので意見を伺いたいと思います。コミュニティや自治会活動など何でもかまいませんので経験等があればお話いただけますか。</p>
岩根委員	<p>ボランティアについて関心がありインターネットで調べたことがありますが、紙媒体や掲示板を見なかったせいかよく分からないまま終わってしまったことがあります。インターネットで発信してもらった方が情報を収集しやすいと思います。</p>
豊岡委員	<p>資料 20 ページに、ワークショップの中で「外国人の文化の違いによる課題」などについて解決策が挙げたが、すぐに実行に移せるものばかりとは限らないとあります。これはなぜでしょうか。</p>
谷本課長	<p>このワークショップでは文化の違い以外にも空き家問題など様々な課題が出てきました。課題に対する解決案がいくつか挙がりましたが、長期的に考えてい</p>

	<p>かなければならない問題も多くあり、すぐに実行できるものばかりでないという記載をしています。</p>
<p>関委員</p>	<p>アンケート調査は、市民向け、市民活動団体向け、それから事業者向けがあり、同じような質問をされているように推測できます。事業者アンケートでは、市民活動に協力又は支援したことがない理由を明示されている一方で、市民アンケートでは、地域活動・市民活動に参加した理由は載っているものの参加したことがない理由は掲載されていません。恐らく同じような質問をされていると思いますので、ここで市民の「参加したことがない理由」が分かれば、先ほど問題提起されていた若い人へのアプローチなど、何か手がかりが見えてくるのではと感じました。</p>
<p>谷本課長</p>	<p>たくさんあるアンケート項目の中からいくつか抜粋して掲載しましたが、3つのアンケートの連動性を考えられていませんでした。再度アンケート結果を確認し、参加したことがない理由についての掲載を検討いたします。</p>
<p>高木副会長</p>	<p>今回の計画を見て、前回より見やすくなっていると感じました。資料10ページの市民活動団体の状況についてですが、NPO法人数は丸亀市内の団体数で、市民活動登録数の中には市外の団体も含まれているということだったと思いますので、それが分かるように記載してはどうでしょうか。</p>
<p>谷本課長</p>	<p>データを確認し、記載について検討いたします。</p>
<p>高木副会長</p>	<p>前回の計画で示していた推進体制を今回も掲載したほうが良いと感じました。また資料23ページの「協働の領域」に関してですが、委託や指定管理が行政主導というのは、市の目指すものとして、また協働に関わる団体として少しイメージが違う印象を受けました。委託事業も協働という部分を大事に事業を受けていくというのが協働推進の方向性ではないかと思いますが、それがうまく表されていない気がしました。</p>
<p>谷本課長</p>	<p>委託の扱いですが、例えば道路を作るなど専門的な技術が必要なものも委託ですし、ある程度受け手側が意見をすり合わせながらよりよい事業にするという委託もあろうかと思います。資料では後者のような民間委託もあるということを示したいと思い、この図を入れています。</p> <p>それから今回特に「推進体制」とは記載していませんが、今後指標など進行管理を具体化するなかで、推進体制についても触れたいと思っております。</p>
<p>鹿子嶋会長</p>	<p>主な取組内容は具体的なものから抽象的なものまであり、進行管理がまだ明確化されていないので、今後具体化されると良いと思います。</p> <p>それでは本日の審議はここまでといたします。事務局から連絡事項がありまし</p>

	たらお願いします。
真鍋課長	＜今後の会議資料の送付方法について説明＞
鹿子嶋会長	それでは本日の会議を終了します。お疲れ様でした。 <p style="text-align: right;">(会議終了)</p>